

校訓：人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう

学校教育目標：自ら学び、心豊かにたくましく生きる七塚っ子の育成



# 薫陶

学校だより くんとう

10月号 令和5年9月26日

七塚小学校長 稲垣 優子



七塚小HP QR コード



## 実りの秋 向上の秋

日本に大きな被害をもたらした台風が過ぎ去り、急に朝晩の風に秋の気配が感じられる頃となりました。運動会の練習も始まり、子供たちは元気に学校に通っております。



さて、いよいよ9月30日は運動会です。今年はコロナ等の感染症は一段落したものの、熱中症など様々なことに配慮し、半日の開催といたしました。子供たちが「楽しかった」「やってよかった」と心に残る会となるように進めていく所存です。子供達は、代表委員会で決めた「全員主役!! 150年目の勝利を目指して Let's challenge」のスローガンのもと、それぞれの種目や応援、係活動にがんばっています。大きな行事を通して、真剣に自分を表現したり、みんなのために自分の役割を果たしたりすることで、大きな達成感が得られ更なる成長する機会となるよう、ご家庭でもぜひ励ましの言葉をお願いいたします。

また、10月は校外学習、マラソン大会など多くの行事を予定しています。これらの行事や日々の授業がさらに充実したものとなるよう、めあてをしっかりとらせて指導していきたいと思っております。これまで付けた力を生かし、一人一人の学びが実る「向上の秋」となるようご支援ご協力をお願いいたします。



## 言葉の乱れは こころの乱れ



子供たちの言語環境の乱れがずっと気になっています。言葉の基礎基本が崩れています。

★キれる ★ムカツク ★イラつく ★終わってる ★ウザイ ★キモい ★ザコ! ★アホトチャウ? ★～スレバ? ★消えろ ★呼び捨て ★ハァー!? ★めんどくさい ★ダルい などなど……

いつの間にか子供の間でも大人の間でも、聞いていて気分が悪くなる言葉が、ふだんの“ごく普通の会話”の中で、平然と?人目(耳?)をはばからず、発せられるようになってしまっています。このような言葉は、発する方も、耳にする方も、決していい気分になるものではありません。子供たちの使っている言葉に耳を傾け、考えてみる必要を感じます。言葉自身を禁止・規制することも必要かもしれませんが、同時に大人が子供たちの「心」にも目を向けてあげなくてはならないと思っております。

上のような言葉をふだんの会話の中で使ってしまう子供たちの心の奥底には、さまざまな「ストレス」や「不安」があるのではないのでしょうか。思春期に差しかかる子供たちとどう向き合うのか。ご家庭でも子供と一緒に考える機会をお持ちください。また、子供たちは言葉が未分化で、自分の気持ちに合う言葉を知らずにこれらの言葉を使っていることも考えられます。そんな時は、別の言葉で言い換えてみることで、子供の思いを再認識することもできますね。

言葉や態度の指導は時間がかかります。まずは教師側が注意深くなり、折に触れて指導をしていかななくてはなりませんし、学校全体の教師の言葉遣いについても共通認識をしなければなりません。指導に対して具体的な成果を測定して因果関係を証明するというのも難しいですが、この数年を振り返って見ると、比較的きちんとした言葉を使うことのできる学級集団・学年集団・学校は比較的穏やかであるのは間違いありません。家庭や社会との連携も含めて、学校側の責任として、最優先課題として言語環境の正常化にしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

一つの言葉	
一つの言葉を大切に美しく	けんかして頭が下がりがり
	泣かされる
	それぞれに
	持っている
	きれいな言葉はきれいな心
	やさしい言葉はやさしい心